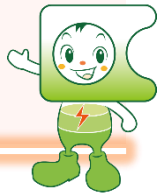


子供たちの学校適応感が分かる

「学校楽しいーと」



先生は、どのようにして子供たちが学校生活に適応できているのかを把握されていますか？
子供たちを観察しているのですが、内面まではなかなか理解しにくいので、良い方法があったら教えてください。

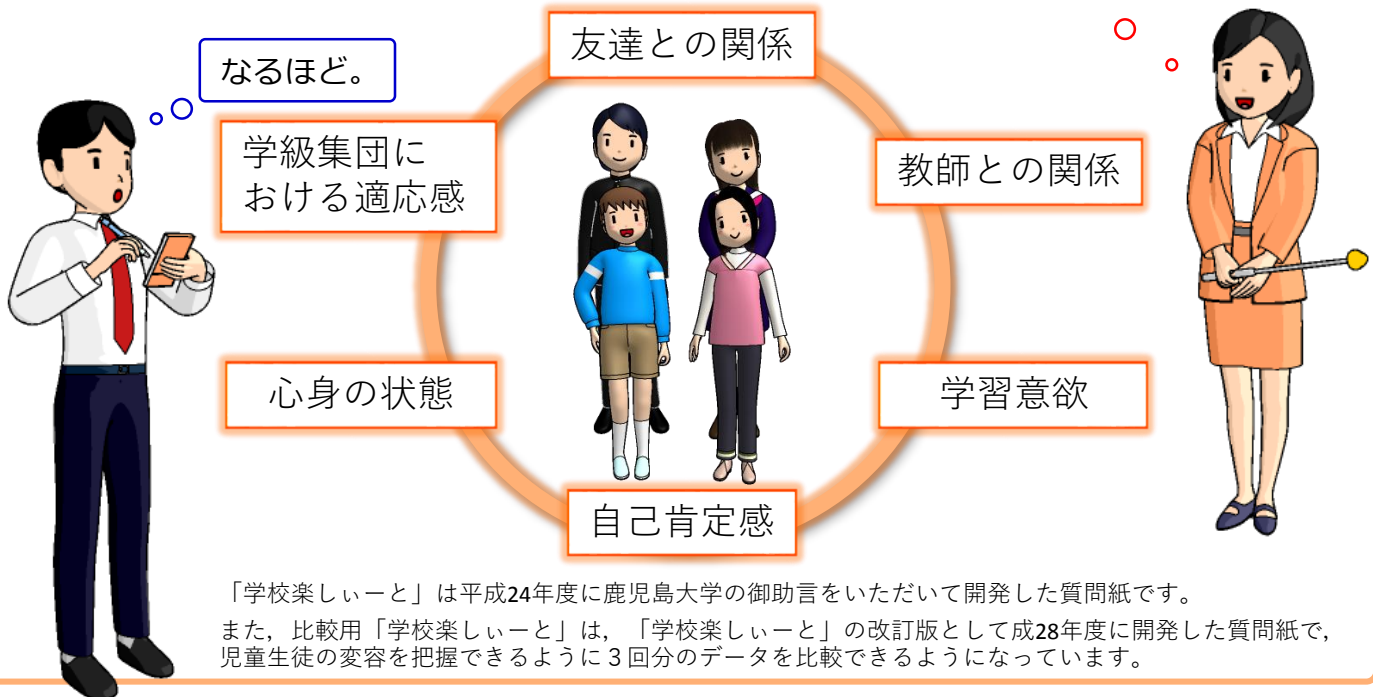
そうですね。確かに、子供たちをよく観察していても、どの程度、学校生活に適応できているかを把握するまで時間が掛かりますよね。
私は「学校楽しいーと」という質問紙で、子供たちの学校適応感を把握するようにしています。

「学校楽しいーと」？
どのような質問紙なのか、教えてください。



「学校楽しいーと」で何が分かる？

「学校楽しいーと」は、子供が6観点の学校適応感といじめに関する内容を自己評価で回答する質問紙になります。子供の回答した結果を分析することで、不登校やいじめ、問題行動の未然防止などを図っていくことができ、適切な支援を検討することができるようになります。



「学校楽しいーと」は平成24年度に鹿児島大学の御助言をいただいて開発した質問紙です。

また、比較用「学校楽しいーと」は、「学校楽しいーと」の改訂版として成28年度に開発した質問紙で、児童生徒の変容を把握できるように3回分のデータを比較できるようになっています。

「学校楽しいーと」はどう分析する？

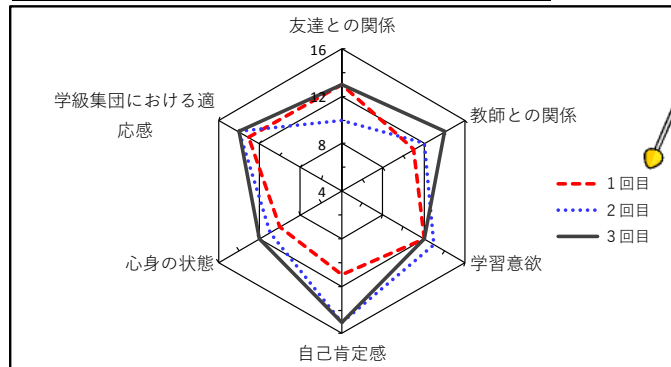
データを入力すると、個人の結果は「個票」、学級の結果は「学級票」として結果を見ることができます。レーダーチャートは、各観点の合計値（最大16）を示し、広がり大きいほど良好な状態と見ることができます。※「学級票」は全て平均値で示されます。

比較用「学校楽しいーと」個票

1年 2組 1番	氏名	大原 台
----------	----	------

1回目 実施日	平成 29 年 4 月 28 日
2回目 実施日	平成 29 年 9 月 24 日
3回目 実施日	平成 30 年 2 月 4 日

観点	1回目	2回目	3回目
1 友達との関係	13	10	13
2 教師との関係	11	12	14
3 学習意欲	12	13	12
4 自己肯定感	11	15	15
5 心身の状態	10	11	12
6 学級集団における適応感	13	14	14



観点	質問	1回目	2回目	3回目	観点	質問	1回目	2回目	3回目
友達との関係	1 学校には、気軽に話せる友達がいる。	4	3	3	教師との関係	2 学校には、悩みや心配を相談できる先生がいる。	3	4	4
	8 学級には、気軽に会話ができたり、遊びに誘ってくれたりする友達がいる。	3	2	4		9 学校には、自分のことを理解してくれる先生がいる。	3	3	3
	14 学校には、自分の悩みや本当の気持ちを話せる友達がいる。	3	3	3		15 学校には、自分が間違いや失敗しても、きちんと訳を聞いてくれる先生がいる。	3	3	3
	20 自分が困っているときに助けてくれたり、協力してくれたりする友達がいる。	3	2	3		21 学校の先生たちは、自分に対してみんなと同じように公平に接していると思う。	2	2	4
学習意欲	5 授業中に「できた」「わかった」と感じることがある。	4	4	3	自己肯定感	4 委員会活動や係(当番)活動での自分の仕事は、みんなの役に立っていると思う。	3	3	4
	12 授業中は、先生の話をよく聞いている。	3	2	4		11 学校行事の計画や準備をやり遂げたとき、「よくがんばったなあ」「よくやったなあ」と思うことがある。	2	4	3
	18 授業中、自分から進んで学習に取り組んでいる。	3	4	3		17 自分には、自分なりのよいところがあると思う。	2	4	4
	24 学習した内容をきちんと理解するための、自分なりの学習の仕方がある。	2	3	2		23 他人から好かれている方だと思う。	4	4	4
心身の状態	6 落ち込むことがある。	3	3	3	学級集団における適応感	3 学級の中にいると、明るく楽しい気持ちになる。	4	4	4
	13 おなかが痛くなったり、下痢をしたりする。	3	3	3		10 学級のみんなと一緒に学校行事に参加したり、活動したりするのは楽しい。	3	4	4
	19 頭が痛くなる時がある。	1	2	3		16 この学級の一員でよかったと思うことがある。	3	3	3
	25 気分が悪くなる時がある。	3	3	3		22 学級は、目標やルールが大切にされているので、安心して居心地よく過ごせる。	3	3	3
いじめ	7 友達から物を隠されたり、暴力を振るわれたりしてつらい思いをすることがある。	4	3	4	MEMO				
	26 友達から悪口を言われたり、無視されたりしてつらい思いをすることがある。	3	3	4					

下位項目は4が最も良好な状態、1が最も困っている状態を示しているのですね。

● 「心身の状態」と「いじめ」の結果は、子供の回答とは数値が逆転する逆転項目になっています。

※ 子供の回答が「1」であれば 個票・学級票は「4」となります。

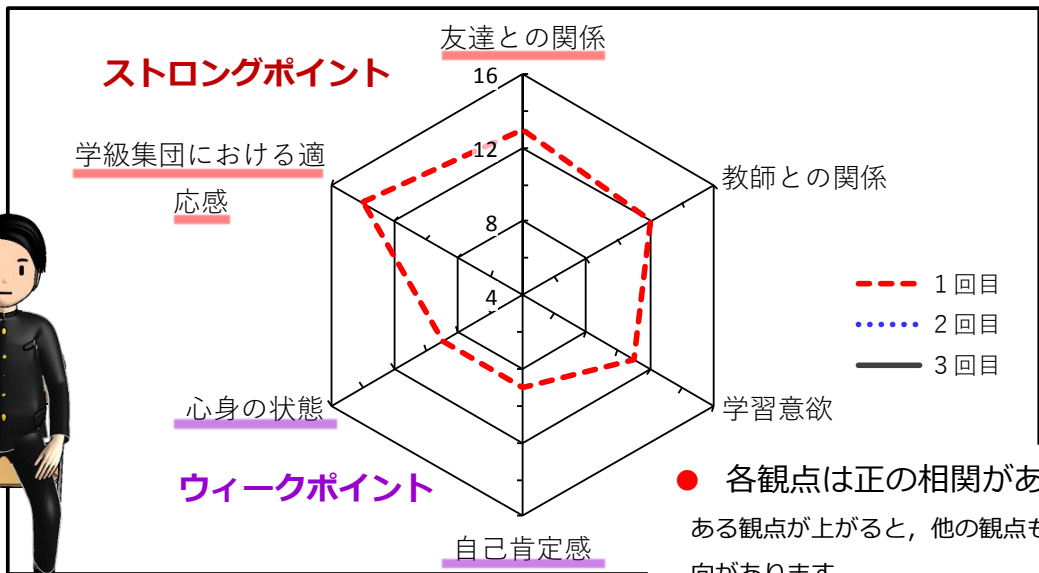
「学校楽しいーと」はどう活用する？

結果を見て「このような状態なんだ」と理解するだけでは、質問紙を有効に活用しているとは言えません。「学校楽しいーと」は、子供が先生へ伝えるメッセージでもあるので、どのような支援が必要であるかを考えていくことが重要です。

どのようなところを支援のヒントにすればよいですか？

全体的なバランスを見て、値が低いところは、子供が困っているところ（ウィークポイント）になりますので、困り感を理解してあげることが大切です。

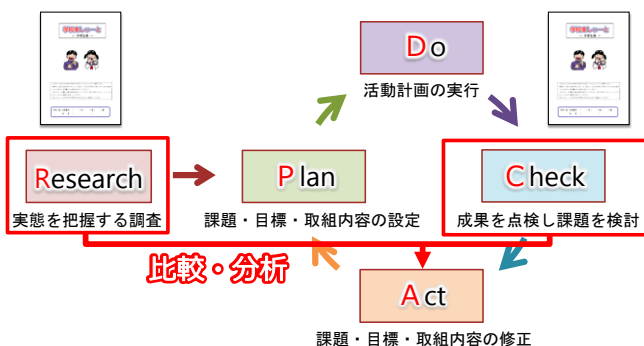
そして、値が高いところは、子供ができている、努力しているところ（ストロングポイント）として、見逃さずに認めてあげることが子供の自己肯定感を高める上で大切になります。



● 各観点は正の相関があります。ある観点が上がると、他の観点も上がる傾向があります。

支援を継続するために

● 「学校楽しいーと」から得られた情報は組織的・計画的に活用することが大切です。



● 個票・学級票の共有化を図ることで、多面的な児童生徒理解ができるようになり、多くの支援を検討することにつながります。

● 年間計画は、「Research（実態を把握する）→ Plan（計画を設定する）→ Do（実行する）→ Check（点検する）→ Act（改善する）」の検証改善サイクル（R-PDCAサイクル）を周期的に行って、改善を図りながら進めていくことが大切です。

「学校楽しいーと」による児童生徒理解の留意点とは？

「学校楽しいーと」は、児童生徒の一面を捉えた姿ですので、“全てが分かった”という理解で満足してはいけません。面談をして児童生徒の考えや気持ちを聴き出したり、他の先生方と情報交換をしたりして、児童生徒を多面的に理解して支援策を検討する姿勢がとても大切になります。

そうですね。「学校楽しいーと」は学校適応感を把握する一つのツールであるということを留意しておくことが大切です。

また、「SNSチェックシート」など他の質問紙の結果を「学校楽しいーと」と併せて分析することで、児童生徒理解をより深めることが有効になります。

- 児童生徒が安心して回答ができるように留意しておく必要があります。



児童生徒が教師の守秘義務への信頼性に疑問をもち始めると、優等生的な回答をするようになり、回答を拒否するようになりやすくなる状況が起きてきます。

「学校楽しいーと」の入手はこちらから

「学校楽しいーと」のダウンロードはこちらから

1 「質問紙」と「実施上の留意点」

小学校 1年生～3年生用	小学校 4年生～6年生用	中学生用	高校生用
小学生用 実施上の留意点		中学生・高校生用 実施上の留意点	

必要なところをClick!

「学校楽しいーと」

検索

<http://www.edu.pref.kagoshima.jp/>

「学校楽しいーと」は、教育相談課主催講座や移動講座の研修で取り扱っていきます。また、活用と分析方法等についての校内研修の支援も受け付けますので御連絡ください。



2 入力集計用シート(Excel)

- 「学校楽しいーと」(平成23年度開発:従来のタイプ)
- ・ 該当する学年のExcelデータをダウンロードしてください。

学級用シート (小1～3)	学級用シート (小4～6)	学級用シート (中1～3)	学級用シート (高1～3)
学年分析シート (小1～6)		学年分析シート (中1～3)	学年分析シート (高1～3)

- 比較用「学校楽しいーと」(平成28年度開発)
- ・ 該当する学年のExcelデータをダウンロードしてください。

学級用シート (小1～3)	学級用シート (小4～6)	学級用シート (中学生・高校生)
------------------	------------------	---------------------

※ 学年分析シートはありません。

平成29年5月発行
【編集兼発行】

「学校適応感の変容を把握できる 比較用『学校楽しいーと』」
鹿児島県総合教育センター 〒891-1305 鹿児島県鹿児島市宮之浦町862
代表 (099) 294-2311 FAX (099) 294-2309 URL <http://www.edu.pref.kagoshima.jp/>
E-Mail center@edu.pref.kagoshima.jp

問合せ先 教育相談課 Tel (099) 294-2788

Copyright©2017 Prefectural Institute For Education Research